
魔王による勇者目録

猫山

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王による勇者目録

【Nコード】

N6975Y

【作者名】

猫山

【あらすじ】

城から数キロ離れたループル村。
オレはそこで鍛冶屋を営んでいた。
だが順風満帆な生活を送るオレには、一つだけ隠し事があった。
それは、オレが元魔王だという事。

知られてはいけない事実を隠し生きるオレ。

そんな折、国王からの使者から一通の手紙が届く。

第一話 日常

十 第一話 日常 十

鍛冶屋の朝は早い。無論オレもその一人。低血圧には少々キツイ仕事である。

「くう つ……」

肌寒い外の空気を目一杯吸い込む。

「ふはー」

で、吐き出す。これが中々気持ち良い。

「今日は天気が良くなりそうだ」

空の様子を見て、独り言を漏らす。自慢だが、オレの天気予報は一度も外れた事はない。

「そついや、頼まれてた品のチェックをしてなかった」

家の中へと入り、鞘に収まった剣を抜く。キラリと怪しく輝く様は、オレの腕が一流である証拠だ。

そついえばこの仕事を始めて、もう十二年が経つ。魔王だった頃のオレが見たら、卒倒物の光景だな。

とはいえ、この生活が嫌いなワケではない。むしろ好いている。

「魔王なんて面倒臭いだけだったからな……」

「魔王がどうしたの？」

っ！！

驚いた。いつからオレの後ろに立っていたんだ？

「え？ついさつきだよ。兄ちゃんが家に入っていくのが見えたから」

この純真無垢な少年は、マードクリフ家の長男ルイだ。オレがこの町へ辿り着いた際に、助けの手を差し伸べてきた一家の息子。

「ルイ。こんな朝早くからどうしたんだ？」

「あのね、母ちゃんが兄ちゃんにこれ持って行って」

ルイの手から、出来たてのパンが渡される。朝御飯にはうってつけの御馳走だ。

「ありがとな」

「ううん。兄ちゃんのためならどうってことないよ。えへへ」

ぐはっ。

なんて破壊力だ。魔族のオレにとって、この天使の微笑みは非常に辛い。

「兄ちゃん？どうしたの、大丈夫？」

こんなオレを見ても、引かずに心配してくれる……なんて優しい子なんだ。

「ああ、大丈夫だ」

「ほんとに？」

「ほんとだ。ほら、こんなにピンピンしてるだろ？」

「うん！ あ、そうだ。兄ちゃん、魔王がどうたらってなに？」

なんて鋭い。これは早々に誤魔化さないとボロが出る。もう出るけど……。

「これ、おばさんにありがとうって伝えといてくれるか？」

「え、あ、うん！判った」

「よし、じゃあお家に帰りな」

「え、え？」

有無を言わず、ルイの背中を押す。

ふう……。魔王を辞めてからというもの、なんだか胸を痛める事が多くなった気がする。ただ、あの日々に比べたら胸を痛める理由が幾分マシではあるが……。

第二話 命令

十 第二話 命令 十

「 というワケで、今代の魔王の討伐を君に頼みたいんだ」

「 なにがというワケでだ。ふざけんのも大概にしろよ。なんで元魔王のオレが、同族を殺しに行かなきゃなんねえんだ」

「 いやいや、案外的をいた考察だと思っただがな。魔王に対抗出来るのは魔王だけ、そうであろう？」

「 根本的におかしい上に、その魔王を十二年前負かしたのはどのどいつだ」

「 それは、君が手を抜いていたからこそその勝利だよ。私とて、己の実力を過大評価するつもりは毛頭ない」

「 ……どちらにしろオレはそういう揉め事には参加しねえ。あの戦争の時に、そう誓っただろう」

「 ……君も見かけによらず頑固者で困る。ふむ、なら仕方ないな。では、二つだけ選択肢を与える。そこから、君の気に入った方を選ぶと良い」

「 ……、例えば……？」

「 私の手紙、並びに命令を無視した大逆罪で牢獄生活を強いるか、潔く勇者になるか」

「 ……結局脅しかよ」

「 仕方あるまい。私とて、これでも充分考慮はしたつもりだ」

深い溜め息を吐く。

理不尽も度を過ぎると、怒りより諦めが先に生まれるらしい。

「しかし。魔王討伐へと旅立つ君に、一切の支度金を渡さないと
いうのには少々胸が痛む」

話の当事者を無視して、魔王討伐の線で話が進められる。オレの
選択権はどこにいった。

「受け取れ。支度金だ」

乱雑に渡されたお金は、わずか十ゴールド。しかも、ズボンのポ
ケットから放り出された。

……オレは、この国王を殴る権利があってもいいと思う。それが
駄目なら、問答無用で殴り倒させてくれ。そうでないと、オレの気
が治まらない。

「言いたい事はこれだけだ。もう退がって良いぞ。それと私は今
からデートなのでな、見送りにはいけん。その代わり、心の中で精
一杯応援しておくのでな、安心して旅立つが良いぞ。はっはっはっ」

はい。撲殺決定。

王様の彼女には、後できちんと謝罪を伝えるに行こう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6975y/>

魔王による勇者目録

2011年11月22日04時03分発行